

千葉教育

蓮

平成30年度
No.650

6・7月

千葉の子どもたちの未来のために

特集

「社会に開かれた教育課程」をどう実現するべきか ～カリキュラム・マネジメントの視点から～

○シリーズ 現代の教育事情

横浜国立大学教職大学院教授	石塚 等
文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長	白井 俊
県教育庁教育振興部学習指導課	
市川市教育委員会生涯学習部教育政策課	

○提言

道の駅とみうら枇杷倶楽部元駅長	加藤 文男
-----------------	-------



千葉県総合教育センター

目次

千葉教育 蓮 No.650

◆学校自慢

地域とともに歩む楽しい学校づくりをめざして

香取市立小見川中央小学校長

多田 成明

◆提言

命がけの飛躍

道の駅とみうら枇杷倶楽部元駅長

加藤 文男 …2

シリーズ！ 現代の教育事情 「社会に開かれた教育課程」をどう実現するべきか～カリキュラム・マネジメントの視点から～

- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて 横浜国立大学教職大学院教授 石塚 等 …4
- 新しい学習指導要領を読み解くための視点 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長 白井 俊 …6
- 「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメント 県教育庁教育振興部学習指導課 …8
- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて ～コミュニティ・スクールの推進～ 市川市教育委員会学校教育部学校地域連携推進課 …10

私の教師道

- 学校を創る 新米校長の一年間 ～学校の強みを学校経営に生かす取組～ 松戸市立旭町中学校長 後藤 忠幸 …12
- 学校を支える 「那古っ子の育成」を目指して ～学校教育目標具現化への取組～ 館山市立那古小学校教頭 吉野 薫 …14
- 学校を動かす 主幹教諭としての1年 習志野市立第三中学校主幹教諭 三橋 直行 …16
- 子どもを知る 児童理解に努める ～私が行ってきた「ほめだし教育」～ 富津市立青堀小学校教諭 安西脩倫子 …17
- 子どもを知る 初任者研修を通して 県立柏南高等学校教諭 長尾 彩美 …17
- 授業を創る 私が大切にしていること 流山市立江戸川台小学校教諭 赤澤 由芙 …18

活・研究 長期研究生からの報告

- 小学校編 多様な考えを生かした算数指導
～課題設定の工夫と協働的な活動の充実を通して～ 松戸市立高木小学校教諭 石井 直光 …20
- 中学校編 実社会で活用する古典の学習指導 ～「兼好法師家集アンソロジー」「徒然草」人生相談を編集する活動を通して～
船橋市立湊中学校教諭 吉住 任美 …23
- 特別支援学校編 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた生徒の思いを生かした授業づくり
～授業の視点シートを使った音楽の授業分析を通して～ 県立東金特別支援学校教諭 近藤可奈子 …26

情報アラカルト

- 県立学校改革推進プランの一部改訂及び第4次実施プログラムの策定 県教育庁企画管理部教育政策課 …29
- 平成30年度学校教育指導の指針について 県教育庁教育振興部学習指導課 …30
- 千葉県版不登校対策指導資料集について 県教育庁教育振興部児童生徒課 …32
- 不登校対策支援チームについて 県教育庁教育振興部児童生徒課 …33

学校 NOW！

- 先進校の取組 「特別の教科 道徳」子どもが自ら考え、議論する道徳への転換をめざして 佐倉市立寺崎小学校 …34
- 学校歳時記 新学習指導要領の「理解」を更に促進する 教育創造研究センター所長 高階 玲治 …36

◆発信！特別支援教育

特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ

県総合教育センター特別支援教育部 …38

◆千葉歴史の散歩道

加曽利貝塚が特別史跡に指定！

文化財課主任上席文化財主事

吉野 健一

道 標

「社会に開かれた教育課程」をどう実現するべきか～カリキュラム・マネジメントの視点から～

2016年12月の中央教育審議会の答申は「社会に開かれた教育課程」を理念として提示した。県教育委員会は「学校教育指導の指針」において、「社会に開かれた教育課程の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの確立」を掲げた。すなわち、「人生を拓く『確かな学力』を育む」「思いやりのある『豊かな心』を育む」「活力にあふれる『健やかな体』を育む」である。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。これは、中央教育審議会答申に基づく新学習指導要領の施行に伴う措置である。

「社会に開かれた教育課程」の捉え方には、大きく二つの解釈が考えられる。

一つ目は未来軸としての将来社会・未来社会を生き抜く将来像という解釈である。産業構造が大きく変化する2030年の日本の姿を想像してみるといい。人口が減少し、驚異的な高齢社会が出現する。成人した子供たちが身に付けるべき学力や能力とは如何なるもの

であろうか。学校は如何なる責務を担うべきであろうか。このような社会の構造変化への深い認識を管理職だけでなく教職員も持つ必要がある。

二つ目は社会軸としての学校という空間と、その外側にある家庭、地域社会との連携・協働の推進という解釈である。たとえば、地震に伴う津波等の災害に対して、地域社会の学校に期待するものは大きい。復旧においても、児童・生徒のボランティア活動は必要であろう。地域の人材、広く言えば、日本の人材として育っていく子供たちへの期待を多くの人が持っている。その期待を踏まえどのような人材を育てるのか学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させていくことが必要である。

新学習指導要領の移行期を迎え、「社会に開かれた教育課程」の理念とその実現するための方策について考えていきたい。